

東京建具高等職業訓練校 第60期生修了式

第60期生7名が東京都技能照査に合格

建具工としての知識・技術の基礎を修了

東京建具高等職業訓練校（岡村宣勝校長）の第60期生修了式及び第61期生終業式が3月16日、東京都江東区の「ティアラこうとう」中会議室で行われた。

修了式は岩木二郎副校長の開式の辞で始まり、岡村校長から修了生となった第60期生7名各自に修了証書



岡村好調の式辞

が授与された。修了生は2年間、合計3200時間の訓練時間を受け、木材加工系木工科の普通職業訓練を習得したことの証明を受けた。

東京都技能照査には修了生全員が合格。合格証書は修了生を代表して田神裕太さんが受領。2年間における学業優秀者表彰では、東京都職業能力開発協会会長賞を杉浦宅哉さん、東京建具高等職業訓練校校長賞を内田功さん、精勤賞を北爪一喜さんと廣田司さんが受賞。受賞者には賞状と共に記念品を贈呈。職能協会長賞及び校長賞には鮑・豆平寸8、精勤賞にはクシ形が贈られた。

校長式辞において岡村校長が修了生に向けて訓示。「第60期生の皆さんは晴れて卒業となった。修了生は訓練校の先生に2年間、社会人として必要な知識と建具工としての技術の基礎を指導してもらった。先日の技能照査でも粘り強く課題に取り組

み、全員が合格できた。卒業後は日々進化する建築様式に対応できる建具の職業人として1日も早い成長を目指してもらいたい。仕上がった製品の出来栄えに対して欲が出てくれば独り立ちできる。皆さんには根気強く精進してもらいたい。職業人として資格は一生の宝であり、技能検定、技能五輪、技能グランプリに挑戦してもらいたい」と、今後の成長に期待を寄せた。

来賓祝辞では東京都立中央・城北職業能力開発センターの増田和則所長、東京都職業能力開発協会の安藤弘志専務理事、一般社団法人全国建具組合連合会の太田明副理事長が挨拶。増田所長は「修了生の皆様は働きながら職業訓練をする生活を続け、仕事と訓練の両立に様々な苦労があったと思う。伝統の匠の技を守り続けてもらうと共に、ものづくりの更なる発展に尽力することを願

う」と、門出を祝福。安藤専務理事は「修了生の皆様は基礎を学ばれた。基礎は足腰をしつかりとさせる。これから一本立ちして社会人となる訳であるが、辛いこと、仕事の悩みも、懸命にやっつけていけば解決する」と、ひたむきな姿勢の重要さを説いた。太田副理事長は「建築様式の変化に伴い、建具の仕事内容も昔と変わってきている。授業を吸収して幅の広い技能者として活躍して欲しい」と、訓練校で学んだ知識と技術を磨くように論じた。

関係者からのお祝いの言葉は、訓練校から滝沢幸吉氏と鈴木光明講師が修了生に向けて業界人としての知恵と心構えを教示。修了生からの感謝の言葉は代表で北爪一喜さんが発表。「2年間は短いながらも有意義で充実した時間でした。第60期生全員が技能照査に合格して卒業することができたのも、先生方の指導のお陰であると感謝しています。訓練校で学んだことを無駄にせず、建具業界の発展と技能の向上に努力していきます」と、今後の飛躍を誓った。訓練校から修了生への記念品として砥石を贈呈。修了式は岡田弘一教育局長の閉会の辞で終了した。